

障がい児者の家庭支援する

ぴーす

NPO 法人ぴーす

平成20年度 活動報告書

== 目 次 ==

- | | |
|-----------|---|
| 1 ページ | 年間の参加者数、及び活動回数、会員数 |
| 2～3 ページ | 年間の活動報告＝月日別に活動した内容を記載 |
| 4 ページ | 事業別報告 ■余暇活動■ 1：おもちゃ図書館 ぼっぼ
幼児期の障がい児を対象に、月に1回遊びの場を提供 |
| 5 ページ | 2：音楽サークル ドロップス
障がい児が音楽を楽しむ活動を支援 |
| 6～7 ページ | 3：放課後クラブ ぱる
重度知的障がい児の放課後活動を支援 |
| 8～9 ページ | 4：外出グループ ぴっぴ
高学年以上の障がい児の「友人との外出」を支援
夏休み余暇活動：クッキング/バス遠足 |
| 10 ページ | 5：水曜クラブ ふらっしゅ
重度重複障がい児の e-AT を利用した余暇活動支援 |
| 11 ページ | ■情報提供■ 1：メールニュース ふぁにい
障がい児に役立つ情報を月～金の毎日メール配信
2：ぴーすのメールマガジン
ぴーす利用会員向け月刊マガジン
3：プリズム通信
発達障がい啓発チーム プリズム の会員に配信する情報 |
| 12～13 ページ | ■企画制作■ 1：幼児知的障がい児の母親対象 連続勉強会
小学生の母親が講師をつとめ実施した勉強会 |
| 14 ページ | 2：小さなセミナー
少人数で実施する障がい支援グッズ製作や座談会 |
| 15～17 ページ | 3：その他、講演会など |
| 18 ページ | ■啓発活動■ 1：発達障がい啓発チーム プリズム
発達障がいを市民の草の根の力で啓発するチーム |
| 19 ページ | 2：障がい児者のための防災を考えるプロジェクト
防災を「障がい児者」の観点で研究などをする事業 |
| 20 ページ | ■委託／指定事業■ 1：ぴーすの支援センター
堺市委託の障害者児生活支援事業
2：ぴーすのヘルパーステーション
大阪府指定の居宅介護等支援事業 |
| 21 ページ | ■障がいを支援するモノの販売■
障がい児の暮らしに役立つグッズや書籍の販売 |
| 22～23 ページ | その他／メディア掲載、講師派遣報告 |

～ご挨拶～ この報告書を読んでもくださる貴方へ

平素は、さまざまな場面で、ぴーすへのご支援・ご鞭撻いただき、ありがとうございます。

ぴーすはNPO 法人として第4期を無事に終了することができました。

ここに、その内容をご報告するとともに、皆様からいただいた多くのお力添えに感謝をいたします。

4期目は、ちょっとやりすぎ？と自分達で反省するくらい、いろんな事業や取り組みを実施しました。

これまではどちらかというと「重度障がい児」への取り組みが多かったのですが、平成20年度は軽度や高機能発達障がい児が参加できる活動を数回行いました。また、保護者向け勉強会もより多くのニーズに応えるために、視点を変えた内容で数多くの講演会やセミナーを開催しました。情報提供としては「ぴーすブログ」の開始、販売事業は新商品の開発・・・と、どの部門も休む間もなくスタッフが働き続けた1年間でした。

4期目を終了する頃、よく耳にしたのが「ぴーすは、今後どうなるの？」という質問でした。きっと質問された方は、上記のような「次々といろんなことをするぴーす」だから、きっと何かとても将来設計をして動いているのだらうと思われているのでしょう。そう見えるのかもしれない・・・と思いつつ、正直答えにとまどうばかりの私達です。

4期目を終えて、非常に正直なことを言うと、ぴーすには将来計画など何もありません・・・という、とても無責任で心苦しいのですが、これまでやってきたことすべて、計画立てて進めてきた訳ではなく、そして今後も何かしっかり計画してから活動をするというつもりもなく。

それは1つの組織（法人）としていかなものか？という疑問は、もちろん私達の中にもあることはあるのですが、でもやはり「常に、初心忘れず」でいきたいと思っています。

ぴーすは、何か事業を行うために設立された法人ではなく、ただ「障がい児とその家族がたのしく暮らす」ことだけを目的に活動をしている団体です。誰かが「たのしく暮らすため」に、欲しいと思うモノ、したいと思うこと、それを日々「どうしたら手に入るかな？」と考え、形にするためとにかくやってみる。これが、ぴーすの基本。なので実は、とても無計画な、無鉄砲なやり方で、ここまで来ています。

それは時に、他者にご迷惑をかけた、余計なアクシデントを起こしたりして、多くの方に助けてもらっている訳ですが、その結果「欲しい！したい！」と望んだ子・家族に笑顔と満足があふれていて・・・で、つい私達は「そこがOKなら、いいやん」のノリでここまで来ています。たぶんそのノリは、これからも同じだと思います。いや、同じでいたいです。

こんな私達ですので、おつきあいくださる皆様には非常にご迷惑やご苦勞をおかけしていると思います。大変申し訳なく思いながらも、できましたら、ぴーすの向こうに「今、最高のスマイルしている障がい児とその家族」がいることを共に喜んでいただき、今後も「障害と暮らす人生」に笑顔でOK！と思える人がひとりでも多くなりますことを、応援いただけたらと思います。

微力ながら、スタッフ一同小さな力をかき集めて、がんばっていきます。どうぞ今後も暖かいご支援をいただけますよう、よろしく願いいたします。

平成21年5月

NPO 法人ぴーす 理事長 小田多佳子

ぴーすは、障がい児の余暇活動をさまざまな形で支援や運営をしています。
平成20年度に支援及び運営をしたグループの、個別報告は以下の通りです。

1：おもちゃ図書館 ぽっぽ

たくさんのおもちゃが揃っている中で、障がい児とその兄弟が気がねなく自由にのびのび遊べる場所の提供をしているグループ。対象は0～10歳程度の障がい児とその家族で、会場は堺市総合福祉会館プレイルームです。子ども達とお母さん達が、好きな時に好きなだけ遊んで、おしゃべりして、時を過ごせる憩いの空間です。私たちスタッフも、ほとんどが子ども連れでの参加となり、みなさんと一緒にほんわかしたムードで楽しく活動しています。ぽっぽでは、たくさんのおもちゃに囲まれ、子どもたちは思い思いに遊び、ゆったりとした空気が流れています。お母さん達はそんな子どもを見守りながら、ぽっぽで知り合った仲間たちと一緒に、子どもの成長を喜びあったり、時には悩みの相談や情報交換をしたり・・・スタッフ達もかわいい子どもたちの笑顔に癒され、たくさん元気もらいながら活動を続けています。

★ある日の「ぽっぽ」のようす

小雨が降ったり止んだり、出足が悪かったのでしょうか？朝はがらんとしたぽっぽでしたが、午後からはだんだんにぎやかになりました。初めての方も5組来てくれました。

最近、続けて遊びに来てくれるTくん。今日は布製のお魚釣り用のいけす？に身体ごとくるまって気持ちよさそう！くるまった上からスタッフがこちょこちょすると「もっと～！」と嬉しそうです。ちょっかいを出そうとスタッフが一緒にいけすの中に入っていくと、急に飛び出して逃げてしまいました。



「一緒に入るのはイヤだった？ごめんね」と思っていたら、走って戻ってきたTくん。手にしたままごとセットのお皿には豪華なごちそうが！それをスタッフに笑顔で差し出してくれました。とってもうれしくて「いただきますあ～す！」と美味しそうに平らげたスタッフでした。優しいTくん、ありがとう。そして、ごちそうさまでした～。

この日のTくん、通園施設で同じクラスのAちゃんにもごちそうを作ってあげていました。お母さんいわく、気に入ったおかずをお皿に盛りつけることがマイブームだとか。おうちでのお母さんのお料理姿を良くみているんでしょうね。

平成20年度は

開催回数：11回（10月は福祉会館がイベント開催で貸切のため実施できず）

参加者：53～89名（月平均74名）年延べ数806名

おもちゃ貸出数：8～40点（月平均18点）年延べ件数191件

その他の活動

活動	内容	回数	参加者数
機関紙よっトOYで！	編集会議・印刷	年11回（月1回）	延べ 55名
クリーニング	おもちゃの清掃	年10回	延べ 65名
倉庫清掃	倉庫内の整理・清掃	年2回	15名
スタッフ会議	開館の打合せ	年2回	16名
総会		年1回	12名
合計			163名

開館日・その他の活動合わせての延べ総数 969名

ぽっぽは、ぴーす会員以外でも誰でも参加可能なグループです。

障がい児が集団で音楽を楽しむ支援をしています。年齢や障がい状態にあわせて小さなグループを構成しています。幼児は保護者と一緒に、学齢期はひとりで or ヘルパーさんと一緒に、歌う・聴く・演奏する・踊るなど自分を自分らしく表現しつつ楽しめます。現在4グループが月1回、土曜日に活動中です。

平成20年度は

実施回数：33回（年間延べ参加者数261名）

実施場所：ソフィア堺ミュージックルーム

★第1グループ／小学低学年グループ（比較的コミュニケーションできる児童）

母と一緒に参加ですが、活動は単独で行うことが多いです。「歌う」は数曲の中から一人ひとりが曲を決め、みんなで歌います。「楽器」太鼓のリズム打ちを練習中です。「聴く」先生のピアノ演奏を静かに聴いています。

★第2グループ／小学低学年のグループ（コミュニケーションの困難な児童）

母と一緒に参加しています。各自が自分のスケジュールを用意。挨拶はビッグマック（会話補助装置）を使い発語のない子も元気に「こんにちは！」。「踊る」は曲ごとに歩いたり、飛んだり、寝転んだりしっかり身体を動かします。「楽器」は太鼓や鳴子・鈴を、「聴く」では先生のピアノを座って静かに聴く練習中です。

★第3グループ／小学低学年グループ（比較的コミュニケーションできる児童）

「歌う」では数曲の絵カードから選んでみんなで歌う、「踊る」は歩く、飛ぶ、フラフープで使う、「楽器」は太鼓のリズム打ちを練習中です。「聴く」ではつい触りにいくなどあり、座って静かに聴く練習中です。

★第4グループ／小学高学年～中学生グループ（コミュニケーションの困難・比較的できる児童混合）

「挨拶」発語のない子はビッグマック（会話補助装置）を使い「こんにちは！」。発語のある子もまねしてビックマックであいさつ。親子参加ですが、「踊る」以外は、単独で活動。「歌う」では数曲の絵カードから選んでみんなで歌う、「楽器」は太鼓・なるこ。「聴く」先生のピアノ演奏を静かに聴いています。

【ある日のようす】

Sくんは、これまで入室をイヤがることは全くないのですが、取り組みにはなかなか参加できず。わざわざピアノの後ろで耳ふさぎしたり、ルーム後ろのロッカーの上に登ったり、ストックで積んであるイスの中にすっぽり入り込んだりと、独自の動きをすることが多かったのです。それが、ここ数ヶ月で大きな変化がありました。

〈あいさつ〉の時、名前を呼ばれると「はい」と手を上げてお返事。もちろんビックマック（こんにちはと録音されている会話補助装置）もしっかり押していました。

〈うたう〉では、カラオケを使ってみんなで歌うのですが、テレビの前へ出てきて、かぶりつきで画面を見えています。これまで、この画面の存在に気づいてなかったかのような「お、こんなんがあったんや〜」的な、はじめて見るような勢いです。そういえば、ホワイトボードに掲示しているスケジュールも、「お・・・」って感じで食い入るように見てました〜もしかして、こっちもお目にとまってなかったかな？

〈おどる〉では、参加する場面が見られるようになり、フラフープを使う曲になると、真っ先に取りに来て、一人でフープを持ってスタンバイOK！。母の「入っていい？」は拒否、笑。一人でタイミングよくフープを落としていました。

〈がっき〉になると、床に座り準備。太鼓は両手でしっかりバチを持ち、とても集中して叩いていました。鈴も最後まで手に持って取り組むことができます。

フツーにできる人から見ればささやかな成長かも…ですが、スタッフも、参加者も拍手喝采！みんなですてきなよろこびを共有している「ドロップス」です。



ドロップスは、ぴーす会員のみが利用できるグループです。

ぱるは障がい児の放課後生活を支援しているグループです。

障がいに関わらず年齢らしい暮らしぶり、「自己決定・コミュニケーション・地域性」を大切に活動しています。具体的な内容は、学校終了後みんなで公共交通機関や徒歩で集団下校をし、活動拠点となる「家」に帰ります。

家では自分のやりたいことを、友達を意識しながら楽しむ・遊びだけでなく「勉強＝自立課題」やお仕事にも取り組んでいる・そんなやわらかな集団活動です。

平成 20 年度は

補助を受けていた堺市「ファミリーサポートデイサービス事業」が、昨年度 8 月より「障害児放課後活動等支援事業」に代わり、プロポーザルの結果、3 グループが決定し、以下のような内容で実施をしました。

実施回数：約 512 回（年間延べ参加者数 2、382 名）

実施場所：ぱるの家（中区深井清水町）、ぴーすの家（北区百舌鳥梅町）、ぼんたの家（北区百舌鳥本町）

実施日：毎週月～金、年齢・居住地によりグループ分け

参加者 小 2＝4 名 小 3＝6 名 小 4＝9 名 小 5＝1 名 小 6＝2 名

中 1＝3 名 中 2＝4 名 中 3＝5 名 高 1＝2 名 高 2＝1 名 登録数 37 名

※長期休暇は、午前 11 時から午後 4 時まで、活動拠点の家を中心に活動（昼食含む）しました。

※行事として、遠足を数回実施（さをりの森・有馬富士公園、大仙公園、大池公園 他）



～子ども達のようす～

◆小 2：A さん（重度自閉症）

初めての夏休みの活動で、いつもより長い活動なのでどうかな？と心配しましたが、楽しめていたようです。昼食は、スタッフに伝え UF0 を買いに行き、自分で作りました。湯切りが難しいようでしたが、スタッフの助けで「つくった！」と満足げに食べました。いろんな形のシャボン玉機を見た瞬間、目がキラ～ン！自分で液をつけて上手にしていました。トントンとスタッフの肩を叩いて伝える方法を教えてもらい、粘土を手に入れうれしそうに遊ぶ姿もありました。楽しみをたくさん見つけれられた夏休みでした。

◆小 4：B さん（重度自閉症）

高学年ぱるになって、大きいお兄ちゃんたちと行動をとみにしているのですが、戸惑うことなくマイペースで過ごしています。お仕事の空き缶つぶしも、すぐに手順を覚えてしまいアツという間に出来上がり。掃除機のお仕事をしているお友達がゆっくりかけていると「こうするのよ！」といわんばかりにささっとかけてしまうほどの手際よさがすばらしい！最近図書館へのお出かけがお気に入り、スタッフに図書館のカードを示してアピール。タイマーで待つ練習も最初は少し怒っていましたが、タイマー片手に出かけるのを待ってれています。

◆中 1：C くん（重度自閉症）

昼食は必ずカップヌードルを買って食べるこだわりがある彼。おはなはんと言うお好み焼きセットでクッキングの日、「クッキングするかな？その前に食べてくれるかな？」と不安でした。スタッフが準備を始めるとなんとなくこちらを気にしています。一番に声をかけてみると、スーッとやってきて作る気満々。手順書の写真とマッチングさせながら…でも初めてだったからスタッフの顔をチラッと確認しつつ、具材を上手に混ぜてホットプレートへ。焼き上がりはタイマーを使って、びっくりするほど集中して取り組んでいました。「上手やん！」なんていわれると照れくさそうにでも自慢げにニッコリ。そして黙々とたいらげました。達成感をいっぱい感じているようで、ごちそうさまをする姿も誇らしげに見えました。

◆中 2：D くん（重度精神発達遅滞）

最近とてもお友達のことを気にしてくれます。「こっちよ～」と自分より年齢の低い子に声をかけてくれたり、お兄ちゃんぶりを発揮です。たまに「うるさいな…」って顔で返されますが、大きな心で受け止めて…ってくれています、笑。自販機にも一人でいけるようになりました。最初は「一人で行く？」とのスタッフの問いに「えっ！」って顔でしたが、今では「いってきま～す」と自信を持って出かけていきます。

ボウリングへ行ったときのこと。何度も行っているのかとてもよくわかっていて、順番が来るとボールを持ってスタンバイ！回が進むにつれ、ボールを持って準備するのが早くなり、早くやりたそうでした。バス移動も落ち着いていて、見通しを持って活動をしていました。夏休みのおやつに、カキ氷をしました。カキ氷の蜜を見つけて食べたそうにしていたので、スタッフがカードを持ってきて、「これ？」と聴くと「そうそう！」自分でつくようにすすめると、とてもうれしそうにつくり、蜜もしっかりイチゴ味を選び、おいしそうに食べていました。

～保護者の感想～

☆小3 男児の保護者

月、木と週2のペースでばるに通っています。地域ののびのびルームにも通っていますが、最近では「のびのびは行かない」と拒否することも多くなり、平日はほとんど行かなくなりました。そんな彼も、ばるは、今まで一度も拒否したことがありません。少人数のゆったりしたペースのなか、友達と交替でビデオをみたり、新しい課題に取り組んだりと意欲的に参加させていただいています。

ばるで帰り際にスタッフの人からいただくその日の報告書はいつも楽しみで、持って帰って家族の目につくところに置いておくと、兄弟たちがそれを見て、「お、今日も自販機でファンタグレープ買ったんや～すっきやな～」とケラケラと笑ってみたり、お父さんは、「おやつはハイチュウ専門やな～」と彼のこだわりぶりを分析してみたりと、家族で楽しく読ませてもらってます。

彼が、放課後に過ごす様子を家族もなんとなく気にしながら、ばるのある日の朝に、「今日はばるやね～いってらっしゃい！」家族に声をかけてもらうと、彼もうれしそうです。彼にとっても、家族にとってもばるはとても貴重な存在です。

☆小4 男児の保護者

行き始めた頃は視覚支援を始めたばかりで、学校に行く時は学校のカードを貼るんや～程度しかわかっていなかったのですが、ばるの家に通うようになってスケジュールを教えてもらう事で、今自分がやるのがわかり、自分の財布を持って自分のジュースを自販機で選んで買うことも、好きなお菓子をお店に買いに行くことも教えてもらってできるようになり、困った時は暴れたり騒ぎを起こして人に来てもらうのが人を呼ぶ方法と思っていたのが、助けてもらいたい人の肩をトントンと叩くだけで人は来てくれるって事もスタッフの方々に根気強く教えていただき、子供は自分の意思を伝える方法を習得しできる事も本当に増えました。

先日、私が母スタッフとしてばるの家に行った時、スタッフの方にラーメン作りを教わり、2・3点手助けが必要ですが、生まれて初めて自分で作って食べる事が出来ました。

それからは家でもすごく緊張しながらも自分で作って食べてます。我が家では3人兄弟の末っ子って事もあり、母以外にも目も手もかけられる人が多いので、子供が本当はできることを先回りしてやってしまい、かえって出来なくしてたんだな～と反省です。

自分がしたい事を自分でする力をつけてあげる事って本人の自信にもつながるし、周りも助かるし、すごく大事なな～と思いました。本当にいろんな発見や喜びがあり、そんな体験をさせてくれて気付かせてくれるばるの家は、我が家にはなくてはならない存在になっています。

☆高1 女児の保護者

小6の秋からばるに参加していて、丸4年が過ぎました。受動タイプで指示待ちだったのが、ばるの中でのかわりにおかげで、自分からの発信も増え、お友達のやっていることを見て覚え、家でも自分から手伝ってくれることが増えました。たとえば最近、洗い物をしてくれたり、コーヒーを入れてくれたり、頼まなくても自分からしてくれます。お友達がお仕事でやっているのを見て、やってみようと思ったんでしょうね。これからも、新しい経験をいっぱいしてもらいたいです。



ばるは、ぴーす会員以外でも利用できるグループです



小学4年生以上の障がい児の、グループ外出の支援です。お母さんから離れて、お友達と外出！グループは、年齢や障がい程度に合わせて構成。計画から報告までの支援をぴーすの支援センターでやっています。平成20年度は、軽度知的障がいの小6・中1チーム（びっぴ2）、重度知的障がいの小5・小6チーム（びっぴ5）、軽度知的障がいの高校生チーム（びっぴ6）の3つが、それぞれ月1回、土日に活動をしています。

平成20年度は

★びっぴ2 軽度知的障がいの小6、中1チーム

実施回数： 12回（年間延べ参加数66名）

行き場所：ハーベストの丘、ラウンドワン、下水道記念館、浜寺公園、防災センターなど

★びっぴ5 重度知的障がいの小5・小6チーム

実施回数： 8回（年間延べ参加数32名）

行き場所：よしもとお笑い博物館、さをりの森、梅田スカイタワー、堺浜シーサイドステージなど

★びっぴ6 軽度知的障がいの高校生グループ

実施回数： 7回（年間延べ参加数52名）

行き場所：ボウリング、ビッグバン、海遊館、ユニバーサルスタジオジャパンなど

【活動の様子】

びっぴ2は軽度発達障がい児4名（中学1年生3名と小学6年生1名）のグループです。ボランティアさん2名に介助してもらいながらの外出。みんな、この日を楽しみにしています。

活動は毎回、リーダーを決め、リーダーが選んだ外出先に行きます。リーダーの好みで、体を動かす外での活動や博物館見学など、行き先はバラエティーに富んだものになっています。外出から帰って、「ぼんたの家」でみんなでゲームをしたり、本を読んだりするのも恒例。時には、ゲームをするために活動を早めに切り上げて帰ってくることもあります。活動を通して、相手に合わせたり、交通機関のルールやマナーを学んでいます。

ある月の活動。少しずつ行き先もネタ不足になってきたかな？と思っていると、その月のリーダーさんが「今回はどこも行かずにぼんたの家でクリスマス会をやりたい！」と希望がありました。

そこで、ボランティアさんはお断りし、保護者同伴でのクリスマス会を企画しました。お昼には簡単なクッキングをして・・・と計画していたのですが、やけにダラダラ～な態度の中学生たち。食材を買出しに行くのを急遽変更。外食と相成りました。その後、お菓子や飲み物を買って「ぼんたの家」でゆったりゆったり。母たちも子どもたちとは離れた場所で、思う存分、話に花を咲かせたのでした。行き先選びには悩むところでした。

びっぴ5は、小5と小6の重度の男の子のふたりグループで、お出かけは、このふたりとそれぞれのヘルパーさん、4人でのお出かけです。

ドキドキの1回目。ぴーすの支援センターのコーディネーターが集合場所に行き、お互いの紹介をもらい、ヘルパーさんにも活動内容などを説明し、お見送り。一緒に見送ったお母さんも「どうかな～？」という感じでしたが、終了後にヘルパーさんが、すぐに報告をしてくれました。Aくんはマイペースながらも、Bくんやそのヘルパーさんに、いっぱいおしゃべり。

保護者以外とお出かけで、かなりのハイテンションだったようです。

BくんはAくんのおしゃべりに少し押され気味だったようですが、

しっかりとAくんを意識し、観察していたようでした。

ヘルパーさんも「すごく、いい感じでした！あんなBくんはじめてです。

これからが楽しみです」と、うれしそうでした。

それから、回数を重ねるごとにお互いを意識して、相手を待ったり、

相手に合わせたり、まねっこしたり・・・少しずつですが、いろんな変化が出てきています。

通常の移動支援ではヘルパーさんとのマンツーマンなので自分本位にお出かけになりますが、



「友達と一緒に」「スケジュールを持って」出かけるのも、また違ったおもしろさがあるのかも！
今度はどこに行こうかな～コーディネーターの悩みは、やっぱり、行き先を考えることです（爆）。

ぴっぴ6は、高校生の男子3名、女子3名の6人グループ。6人中5人が同じ学校なので、学校で行き先を相談してくれます。

相談しているときに、意見が分かれて言い合いになってしまったり、活動中にいざこざが起きたりと高校生らしい？トラブルもありますが、その都度、ボランティアからの報告などでメンバーのみんなに話すと、メンバー同士で話し合ったり、うまく行かないときにはアドバイスを求めてくれます。さすがに高校生♪
小さなグループ活動ですが、その中にある人間模様。高校を卒業したら、もう大人への仲間入りです。そのためにもこの活動を通して、いろんな力やノウハウを身につけてくれたら、コーディネーターとしてこんなにうれしいことはないなあと思っています。

ぴっぴは、ぴーす会員のみが利用できるグループです。

H20年度、初めての企画！ ～夏休み 余暇活動～

■障がい児のクッキングin ぼんたの家

この夏から、新たに放課後活動の場として仲間入りしたばかりのJR百舌鳥駅近くの「ぼんたの家」で、重度の子どもたちは親子（ヘルパー可）で、軽度の子どもたちは単独参加で支援スタッフとともにクッキングに挑戦しました。

日時：8月5日（火）・6日（水）・19日（火）・20日（水）の4日間 それぞれ 11:00～14:00

内容：やきそば・おにぎりのクッキング、昼食、遊び…など

支援：ぴーすスタッフ2名が、進行管理をします

1グループは小学校低学年の単独参加の4名、他は3～4名の障がい児と保護者/ヘルパー、きょうだい児も交えて、にぎやかなクッキングとなりました。「お手伝い大好き！けど、野菜は切ったことあるけどお肉は初挑戦！」って子から、「ほ、包丁なんて持たせたことない…」って子もいたり、電車乗り継いでのお出かけ自体が初体験！って子もあつたりで、どのグループも個性満開でした。クッキングでは母にくっついておとなしめだった子も、帰り際には、スタッフがこの日のために用意していた『やきそばの美味しいつくりかた』の手順書をしっかりとにぎりしめ、おみやげ(?)に持ち帰っていました。今日はお留守番だった弟たちにお家で作ってあげることできたかな～？

ながーい夏休みの中のひととき、母たちもおしゃべりに花を咲かせ、子どもと一緒にのお出かけだけど、少しリラックスしてもらえたようで、まったりとした時間が心地よかったです。



■重度障がい児の、大型バスで行く・ファミリー遠足

日時：8月26日（火）10:30出発、17:00解散

行き先：兵庫県立有馬富士公園（あそびの王国・キッピー山のラボ、ほか）

支援：ぴーすスタッフ4名が、進行管理します 費用：1家族 2,000円

参加者 障がい児25名 兄弟児5名 大人31名

堺を出発し、バスで1時間ちょっとで現地に到着～！各自お弁当を食べた後は“遊びの王国”へ。

ほどよい広さの遊具エリアで、すべり台をする子、いろんな所をぐるぐる歩いて散策する子、お友達グループで活動する子、芝生でまったりする子・・・とそれぞれを思い思いに過ごしていました。帰りのバスもほぼ予定通りに到着し、無事堺に帰ってくることができました。「大型バス遠足」という、ぴーす初の企画でしたが、子どもたちの生き生きした顔を見ることができ、「楽しかったです」と声をかけていただき、スタッフ一同、「やってよかった～♪」と感無量でした。お天気に恵まれたのは、きっと子どもたちの日ごろの行いのおかげですね！

～参加者の感想～

- ・実は最初、長時間の集団活動が心配で、参加するかどうかすごく迷っていたのですが、いざとなれば、スタッフの皆さんに頼ろう！と他力本願で参加しました(^_^) 次男は、公園大好きで、満喫しておりました。今回の参加で、母もバス遠足にちょっと自信が持てました。ありがとうございました。また、ぜひ企画してくださいね。

e-AT（電子情報支援技術）を用いた肢体／知的重複障がい児の余暇活動支援をしています。身体の不自由さを e-AT 利用で補い、人に動かされるのではなく、自分の意志でおもちゃを動かす／音楽を聴くなど様々な活動をしています。

平成 20 年度は

実施回数：10回（年間延べ参加者数126名）

実施場所：堺市総合福祉会館プレイルーム、堺支援学校同窓会館 他

百舌鳥養護学校・堺支援学校の学齢期の重複障害のある児童が、おおむね月に一度、水曜日の放課後に活動しています。子供の遊ぶ姿を通して、保護者は支援機器の利用やコミュニケーションの支援について学んでいます。

★開催時の様子より

11月19日はいつもの活動場所を離れ堺支援学校内の施設をお借りしました。学校内ということで、メンバーでない小学校低学年の子どもさんが4名も見学に来てくれました。

遊びの一番人気はやはりパソコン。パソコンを使って「動物シルエットクイズ」をしたり「音楽」を聴いたりして遊びました。

A君は、はじめて遊んだにもかかわらず、支援機器を利用する事で自分が好きな曲を選んで再生できることがわかると操作がどんどん早く的確になってきて周囲の大人をおどろかせました。

それから「ディスコライト」をつけたり消したりして楽しんでいたのがB君です。彼はスイッチそのものにしか興味がないと思われていましたが時々、キラキラ 光るライトを覗いてすごく集中して遊んでいました。そんなときは大人がよけいな手出し口出しないのが一番です。とことん得心するまでお母さんと一緒に見守りました。

そうするとビックリするほど長く集中して遊び、満足気な様子がみられました。

こどもが納得して満足してくれるのがなによりうれしいことだと保護者のみなさんと確認しあいました。



年末にたくさんのおもちゃを寄付いただきました。その中から3月には、新しいおもちゃ「プーさんの蝶々とり」をメインに設定しました。

スイッチを押すと音楽とともに1メートルほどの高さのビニールの筒からヒラヒラと蝶々型の布が飛び出てきます。舞い落ちる蝶々をよく見る子どもや音楽を楽しむ子ども、ビニールの筒が気になって倒しに来る子など反応が様々で面白かったです。遊びに定型などないということを保護者のみなさんと確認しあいました。

もう一つは大きなシャボン玉が豊富にできる電動シャボン玉機を新しく使ってみました。

大きいシャボン玉の迫力はわかりやすく、たいへん楽しめたようです。

★保護者の声より

ぷらっしゅに参加してから、こどもの遊びが広がったり、主体的になったりということはもちろんですが、母親である自分が子供の意思を確認していない、聞いていなかったことに気がつきました。それからは暮らしのいろんな場面で「どれにする？どっちがいい？」と子ども自身に選択してもらうようになりました。

それから、身体的な介護が必要な子どもとの暮らしでは日常的な忙しさについつい自分の休養を十分にとれないことがあります。身体への負担から慢性の腰痛で子どもを連れて参加が難しい時期がありました。学期がはじまり、メンバーのお母さんたちのおしゃべりランチ会に参加。わいわい夏休みの出来事などおしゃべりしながら今後の予定を相談したりして楽しく過ごす事ができました。「のんびり、ぼちぼち、きばらないで」と励ましてもらえ、仲間ってありがたいなと思いました。

ぷらっしゅは、ぴーす会員以外でも利用できるグループです。

ぴーすは、障がい児やその家族の暮らしに役立つ情報を、メール(パソコンや携帯)などを利用して提供しています。平成 20 年度に提供した情報は以下の通りです。

1 : メールニュース『ふぁにい』

月曜～金曜までの毎日、携帯やパソコンへのメールニュースを配信しています。

平成 20 年度は

配信回数 : 320 件 (期間 H20 年 4 月～H21 年 3 月 平均配信数 27 件)

配信内容 : 堺市やその近辺で実施される講演会やセミナーなどの紹介、
ファインプラザやアミティ舞洲などで開催されるスポーツ教室や絵画教室の情報、
堺市内で実施される映画会やコンサート・イベントの案内、
障がい児関係の書籍やホームページの紹介、障がい割引のあるものの紹介
障がい児が利用する支援グッズなどの紹介、
障がい児関係の内容が掲載された新聞記事の紹介
堺市内の障がい児団体やサークルの活動紹介
近隣の公共施設や行楽先などの週末などのお出かけ・余暇情報
使える福祉制度の紹介、 映画やテレビ番組の紹介、

2 : ぴーすのメールマガジン

毎月末にパソコンで配信している会員向けメールマガジン(一部の方には FAX や郵送)です。

平成 20 年度は

配信回数 : 12 本 (期間 H20 年 4 月～H21 年 3 月)

配信内容 : 1 ヶ月のぴーすの活動報告、翌月以降のぴーすが取り組む活動の情報、余暇活動グループのよ
うす、おすすめ書籍やグッズの紹介、スタッフコラム (スタッフの子育て日記のようなもの)

3 : プリズム通信

発達障がいを啓発するチーム プリズムのチームメートに向け配信されている通信。おおむね月 1 回程度。

平成 20 年度は

配信回数 : 15 本 (期間 H20 年 4 月～H21 年 3 月)

配信内容 : プリズム活動の報告や、堺市内の発達障がい関係の情報、新聞記事などを配信

4 : ぴーすのブログ <http://sakai-comcom.net/p-s/>

2009 年 1 月 7 日 開設

ぴーすの各事業の開催情報や活動報告、
スタッフの様子などをリアルタイムに発信しています。



5 : ぴーすのホームページ <http://p-s-sakai.net/>

2009 年 1 月 27 日よりリニューアルを開始

ぴーすの基本情報を掲載しています。
利用会員の皆さんがほしい情報に簡単に早くアクセスできるよう
デザインをリニューアルしました。
また、各種申し込みも安全に行えるよう改善し、
工夫をしています。



ぴーすは、障がい支援に関するセミナーや勉強会を企画制作しています。また障がいを広く啓発するためのプロジェクトを継続実施しており、平成20年度の活動は以下の通りとなりました。

1：幼児知的障害児の母親対象『連続勉強会』

我が子の障がいに気づいて間がない幼児期のお母さん達を対象に、少し先輩の小学生母親が講師役をつとめ、体験談・失敗談を交えつつ、共感・励ましを伝え、生活の工夫・親の心構えを紹介することにより、少しでも早く、我が子への愛情・子育ての楽しさ・将来への明るい希望を取り戻してもらうことを目的に実施している勉強会です。

平成20年度は

1	5月28日(水) 福祉会館大研修室 21名参加	「こんな子育てやっています！」(がんばらなくていいんだよ～) ～先輩のお母さんのしんどかった幼児期のこと～今の子ども様子ビデオつき！ ・参加者に子育ての悩みをかいてもらう項目別アンケート配布(初参加向け)
2	6月24日(火) 福祉会館第3会議室 13名参加	これってなあに？(わかりづらい専門用語あれこれ) ・障がい種別や診断名について学びながら、障がい名や診断名にとらわれず、子どもひとりひとりの「その子らしさ」を大事に！することを学ぶ 後半はグループトークを実施。
3	7月8日(火) 福祉会館大研修室 30名参加	ちょっと先のことだけど～(保育所・幼稚園・学校・放課後など・・・) ～通所・通園・保育所・学校ってどんなところ？放課後をどう過ごす？～ ・養護学校と養護学級のちがいや保育所や幼稚園情報など少しだけ先の進路を考える手がかりをお話。後半はグループトークを実施。
4	9月10日(水) 福祉会館第3研修室 20名参加	障がいを前向きにとらえてみたら・・・ICFを知ろう～ ・ぴーすの小田多佳子理事長よりICFのお話。後半はグループトークを実施。
5	10月8日(水) 福祉会館第2会議室 25名参加	障がい特性を知ろう ～障害特性と感覚について～ ・同じ行動を繰り返したり、変わった行動をしたりするそんなわが子の「???」を考える。障がいゆえの特性だったり、独特な感覚が関係しているということを理解し、親も子ども暮らしやすくなる方法を探ろう。
6	11月4日(火) 福祉会館大研修室 20名参加	困った行動 ～パニック・自傷・他傷・etc・・・ ・障がいの特性からくる行動について学ぶ。特性を理解し、子どものしんどさを知る。パニックを怖がらないで…！障がい理解のチャンスと受け止めよう～ パニックや自傷他傷などに対する母親の心構えについて
7	12月2日(火) 福祉会館第2会議室 24名参加	ことばとコミュニケーション ・いわゆる発語にこだわらず機能的なコミュニケーションを大切にすること また、こどもが主人公となるような暮らしの大切さについて ・1月の具体的支援についての参加者モデルを選定
8	1月23日(金) 福祉会館第3会議室 21名参加	実践報告会～参加者からの報告～参加者のモデルケースから学んでみよう。～ ・3名の受講者の子どもへの具体的支援をぴーすの支援センターと協力し実施する。 ・受講者の方から今回の支援から感じたことを報告してもらう。 ・他の受講者はモデルケースから障害特性に応じた支援について学ぶ機会とする。
9	2月27日(金) 福祉会館第1会議室 16名参加	障害児のいる家族 特別講師小学生の母3人 ・障害児の兄弟や姉妹、祖父母、地域などの付き合い方や自分の事について

★参加者の感想より抜粋

第1回「こんな子育てやっています！～がんばらなくてもいいんだよ～感想

- ・皆さん、笑って話して下さるけど、つらく孤独な日々を乗り越えて「今は子育てが楽しくなった！」と話せるまでに なったと思うと、勇気ができました。
- ・成長している先輩お母さんの話を聞くと元気づけられます。

第2回「これってなあに？（わかりづらい専門用語あれこれ）」感想

- ・今までわからなかった事が理解できたように思います。
障がいにとらわれずに、子供の成長をゆったりとした気持ちで見守っていきたいなと思いました。
- ・まだ診断をうけていないです。今年、診断をうけて…と考えていました。
診断をうける、うけないで、本人が大きく変わるわけではなく子供を理解するためのベースにすぎないんですね。

第3回「ちょっと先のことだけど（保育所・幼稚園・保育所・放課後など）」感想

- ・今、子供が年長なので身にせまる話ばかりですごく聞けてよかったです。
今日のことを参考にじっくり子供のことを考え、子供の身になり、しっかりと進路を決めたいと思います。本当にありがとうございました！
- ・先輩お母さん方のお話。就学前での進路、又、就学においてじっくり参考にさせて頂きながら考えていこうと思います。

第4回「障がいを前向きにとらえてみたら・（ICFを知ろう～）」感想

- ・気持ちの中でモヤモヤしていたものが、小田さんのお話の中で気づけたような気がします。
- ・何といたらいいのか…。涙があふれました。先の見えない不安を少し楽にしてもらえたような気がしました。
- ・「うちもこんなやつた～」とか「一緒！一緒！」と思う話がたくさんありました。

第5回「障がい特性を知ろう・・・」感想

- ・自分では子供の障害のことを理解しているつもりでしたが、あいまいにし理解していなかった内容も多くあり、それがすっきりと頭の中で整理されたような気がします。
- ・いろんな感覚が重なり合ってる事を知ってるつもりでしたが、改めて知った気がします。

第6回「困った行動～パニック・自傷・他傷 etc」感想

- ・最近、子どもがパニックになると、「何で！？ もぉ～いや！！」と自分がしんどいとばかり思っていました。子ども自身が「しんどい」「困っている」という思いの表れだということを忘れていたと思います。反省です。

第7回「ことばとコミュニケーション」感想

- ・初めて参加しました。今、私も戸惑うことがたくさんあるのですが、今日のお話を聞いて1つ1つゆくり試していこうかなあと思いました。言葉よりも、まず、コミュニケーションを築いていこうと思いました。
- ・今回初めて参加したんですが、とてもわかりやすく説明してもらえたので良かったです。

第8回「実践報告会～参加者からの報告～」感想

- ・とってもわかりやすく本当に勉強になりました。子供がとる行動の理由をしっかりと説明してくれて納得です。今日から早速やってみようと思うことがたくさんありました。
- ・「実践報告」という勉強会は初めてで、ほんとに分かりやすく勉強になりました。
今日聞いたみたいの一つずつやってみます。

第9回「障害児のいる家族」感想

- ・この連勉に参加することによってすごく気持ちが楽になっていく自分がいて、毎月参加するのが楽しみでした。
みんな同じ道を歩いてきているんだなあって思うと、グッとくるものがあります。
障がいのがわかりはじめてピークに悩んでいる時、私は「また昔みたいに笑える日がくるのかなあ…」と思っていましたが、今、笑える自分がいるのは家族、友達、同じ悩みをかかえる仲間のおかげだと思います。
- ・同じように兄弟がいるママさんのお話がすごく共感できました。



2：小さなセミナー

障がい児の母達が、大きな講演会などよりも踏み込んだ、より内容の濃い勉強を行なうため、少人数で開催しているセミナーです。少人数であることが和気あいあいと話しやすいムードを作り出し好評です。

平成20年度は

実施回数：24回

実施内容：製作会「サポートブックを作ろう！」

「支援グッズを作ろう」

「コミュニケーションサンプルをとろう」

「サービス計画を立ててみよう」

相談会「何でも相談会」

学習会「構造化を学ぼう」

「自閉症について」

座談会「知的障がい児のしつけについて」

「軽度～高機能発達障害の保護者の座談会」

「中学校の保護者の座談会」

「子どもを紹介するプリントを作ろう！」

「カレンダーやスケジュールを上手に使う」

「ソーシャルストーリーを作ろう」

「染色体異常について」

「会話のできない子のコミュニケーション支援」

「障がい児の性教育について」

「養護学級について話しましょう」

「ヘルパーさんと話そう」

★参加者の感想

～「子どもを紹介プリントを作ろう！」に参加したお母さん～

- ・いざ、自分で仕上げようと思っても、なかなか難しいものでご指導の下、ポイントを絞りながらの作成で自分が伝えたい内容がすっきりと一枚の用紙にまとめられ、非常に感激でした。短時間で仕上がり、その日のうちに園にも渡すことができ、うれしく思っています。本当にありがとうございました。

～「支援グッズを作ろう」に参加したお母さん～

- ・普段、ここまで深く話をする場所がなかったので、いろんな方とお話できてよかったです。いろんな相談をしているうちに自分の中での考えも欲求もしぼれ、よいグッズを作ることができました。ありがとうございました。また、アドバイスください。

～「養護学級について話そう！」に参加したお母さん～

- ・セミナーありがとうございました。各学校によって違うことにびっくりしました。他の小学校の様子がなかなかわからないので雰囲気の違いにも驚きました。今は、一年生ですが、もう少し大きくなってからの悩みなども参考になりました。



～「コミュニケーションサンプルをとろう！」に参加したお母さん～

- ・今まで何気なくみていた子どもの行動には、いろいろな理由があるという事に改めて気づき、とても勉強になりました。親の思い込みが大きいことにも気づき、改めて子どもを見るきっかけができたらいいなと感じました。

～「ソーシャルストーリーを作ろう！」に参加したお母さん～

- ・今日はとてもわかりやすくよかったです。ソーシャルストーリーって何だ？とても不安だったんですが、わかりやすく教えていただきました。ソーシャルストーリーを作ることが、楽しみになってきました。今度は紙芝居を作ってみようと思います。

3：その他、講演会など

15ページ

ぴーすでは、障がい児の母達が普段の暮らし・子育てに役立つ知識を習得するため、講演会やセミナーを開催しています。平成20年度の開催は以下の通りです。

実施回数：13回

- 1、障がい支援セミナーお気軽！お手軽！我が家流支援
- 2、ぴあカウンセリング研修会「カウンセリング講座Ⅰ」
- 3、ぴーすの障がい支援セミナー（子どもの人権について）
- 4、ぴあカウンセリング研修会「カウンセリング講座Ⅱ」
- 5、軽度発達障がいのある子どものワークショップ
- 6、障がい児家族のための防災勉強会
- 7、重度重複障がい児向け講演会：ハイテク支援機器を使う暮らし方
- 8、最重度自閉症児 やあくんの中学生活
- 9、重度重複障がい児の「ハイテク支援機器を使って遊ぼう会」
- 10、軽度発達障がい児のワークショップ第2弾
- 11、障がい児の[感覚]について～我が子の謎・不思議さへの答えにであう
- 12、障がい児家族のための防災勉強会
- 13、'障がい理解・支援'のAハ体験☆～門真一郎先生を迎えて

実施内容：☆障がい支援セミナーお気軽！お手軽！我が家流支援 ～ぴーすスタッフの具体的工夫あれこれ～

5月19日（月）10：30～12：30 堺市総合福祉会館 5F 大研修室 参加者95名

講師：ぴーすスタッフ

～参加者の感想～

- ・こどもの質問を文字に表わすことは、とても本人にわかりやすいやり方だと思い、私もやってみようと思いました。そしてあれもこれもと要求してしまうのでゆっくりしたペースにしてあげようと思がけています。
- ・これまで支援など特に何もしてきてなかったので、今日からすこしずつ何か始めていこうと思います。
- ・支援はこれまで必要だと感じていましたが、頑張らなくてはどういう気持ちかすごく強かったので、しんどい事だと思っていたのですが、頑張りすぎない事が大事なんだなあ気づけたので、楽に肩に力を入れすぎないでやっていこうと思いました。

☆ぴあカウンセリング研修会「カウンセリング講座Ⅰ」

講師：堺市教育センター 室谷正幸氏 参加者 ぴーすスタッフ

6月27日（金）10：00～12：00 堺市総合福祉会館 2F第1会議室

☆ぴーすの障がい支援セミナー（子どもの人権について）

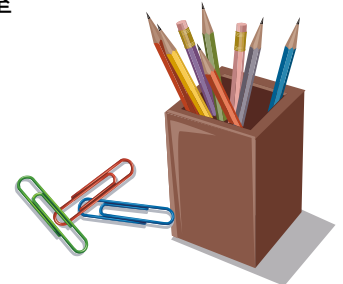
講師：えんばわめんと堺 北野真由美氏

7月1日（火）10：30～12：30 堺市総合福祉会館 3F 第2会議室

参加者50名

～参加者の感想～

- ・「この子のために…」と知らず知らず親があれこれ子どもの意思を奪っていないかな？今、私はなにができるのかな？とたくさんの気づきがありました。
- ・「子どもの人権」なんか難しそうに聞こえますが、北野さんのお話はとってもわかりやすく、あっという間の2時間でした。



☆ぴあカウンセリング研修会「カウンセリング講座Ⅱ」

講師：堺市教育センター 室谷正幸氏 参加者 ぴーすスタッフ

7月4日（金）10：00～12：00 堺市総合福祉会館 2F第1会議室

☆軽度発達障がいのある子どものワークショップ

8月12日(火) 堺市総合福祉会館 3F プレイルーム

第1部(小学校低学年の部) 10:30~11:30

参加者 子ども13名 スタッフ16名

第2部(小学校高学年~中学生) 13:00~14:00

参加者 子ども7名 スタッフ12名

~参加者の感想~

- ・たのしかったです。(小1)
- ・勉強になりました。また来たいです(中3)
- ・少人数で参加できたことは息子にとって本当に貴重な体験になりました
これからの生活に「生かそう」と自分で受け止めた1時間だったと思います。(保護者)



☆障がい児家族のための防災勉強会

9月29日(月) 10:30~12:30

堺市総合福祉会館 2F 第1会議室 参加者39名

講師: 堺市危機管理室 酒谷氏 / 堺市建築安全課 / ピーす理事長 小田多佳子

堺市生涯学習まちづくり出前講座~「災害に備えて」の派遣を受け、堺市危機管理室・建築安全課の担当者より、地震のメカニズムや堺市で予想される大きな災害についての具体的な内容や、建物の耐震について学びました。

☆重度重複障がい児向け講演会: ハイテク支援機器を使う暮らし方

~“こころ工房代表: 宮崎美和子氏”をお迎えして~

10月20日(月) 10:30~12:30

堺市総合福祉会館 4階第3会議室 参加者 50名

講師: 宮崎美和子氏

~参加者の感想~

- ・子育て全般に行き詰まりの毎日でした。もう一度振り返り、何か一つ始めてみたいと思いました。元気を頂きありがとうございました。
- ・VOCAの使い方で、なかなか良いアイデアが浮かばなかったのですが、今日のお話をもとに整理して考えてやってみようと思います。

☆最重度自閉症児 やあくんの中学生活

11月28日(金) 10:00~12:00

堺市総合福祉会館 第1会議室 参加者 24名

講師: 小田 多佳子

~参加者の感想~

- ・「やあくんの愉快な暮らし」に、感動いっぱいでした。ちょっと先だけど、将来像がイメージでき勇気づけられました。
- ・目前に迫る進学問題と中学校生活への不安がやあくんの姿に励まされ、学校や地域との関わりの大事さを感じながら今できる支援、親も楽になる支援をしていきたいです。

☆重度重複障がい児の「ハイテク支援機器を使って遊ぼう会」

11月29日(土) 11:00~16:00

堺市総合福祉会館 3F プレイルーム 参加者 43名



～参加者の感想～

- ・今までスイッチを使ってうまく成功できなかったのですがすぐやめていたのですが、成功体験ができるとこんなに楽しそうなんだ！と、感じました。家でも楽しみ方を工夫したいです。
- ・スイッチを押す動作で動くことがはっきりと結びついたので良かったです。とても楽しめました。

☆軽度発達障がい児のワークショップ第2弾

12月25日(木) 堺市総合福祉会館 3Fプレイルーム

第1部(小学校低学年の部) 13:30~14:30 参加者 子ども12名 スタッフ12名

第2部(小学校高学年~中学生) 15:00~16:00 参加者 子ども6名 スタッフ12名

～参加者の感想～

- ・げきがたのしかった」(小1)
- ・「おこりんぼのやくそく」では、僕のおもっていたことがぜんぶできました。(中3)
- ・ワークショップの様子を見ると、積極的だったようで驚きました。(保護者)
- ・上級生のお兄ちゃんと遊んで、楽しかったようです。(保護者)



☆障がい児の[感覚]について～我が子の謎・不思議さへの答えにであう

2月2日(月) 10:30~12:30 堺市総合福祉会館 5F大研修室

講師: 姫路獨協大学 教授 太田篤志氏 参加者 161名

★参加者の感想

- ・とてもおもしろかったです。園から困ったことのように報告されると、やめさせなければならないのかなと思ったりもしましたが、今は、たのしいのだからしかたないと思っています。ただ、ほったらかしにするのではなく、関わって一緒に楽しんでやることも大切だと思いました。楽しみながら子供を見ていけたらと思います。
- ・普段、自閉症の子どもたちを理解・共感しているつもりでも、自分の意見を押しつけているんだろうな～と、つくづく思いました。大人になると、頭で理解し、理由を知りたいと思ひ、結果を出したいと思ひがちですが、安心感、ただ楽しむ、ストレス解消、見返り、結果を求めてない、このようなスヌーズレンの考え方がどんどん広まってくれればいいなと思いました。

☆障がい児家族のための防災勉強会

2月3日(火) 10:30~12:30 堺市総合福祉会館 2F 第1会議室にて、

講師: 小田多佳子

実際に災害が発生したら…障がい児のいる家族はどうなる? どうする! ということをイメージしながら、日頃から災害時に備えておくものや「障がい児のいる家族としてこれだけは知っておきたい!」という実践的・具体的な内容で、参加者の皆さんも、真剣な表情で聞き入っていました。

★参加者の感想

- ・とても勉強になりました。
- 防災については何も準備が出来ていないなあと反省です。
- いろいろ準備していきたいなあと思いました。ありがとうございました。
- ・非常食おいしかったです。利用していきたいと思ひます。



☆発達障がい啓発講演会 障がい理解・支援'のアハ体験☆～門眞一郎先生を迎えて

日 時: 3月8日(日) 第1部 10:30~12:30 第2部 14:30~16:30

場 所: サンスクエア堺 B棟ホール

講 師: 門 眞一郎先生 ※ 詳細は次ページ啓発活動「プリズム」をご覧ください

■ 啓発活動 ■

ぴーすは、障がい児のことを一般社会に正しく理解してもらうための啓発活動に取り組んでいます。

平成20年度の活動は以下の通りとなりました。

1：発達障がい啓発チーム プリズム

理解されづらい発達障がいをたくさんの人に広く・正しく理解してもらうために、本人・保護者・関係者が力を合わせ、「一人一人、力を合わせ、草の根運動的に啓発しよう」というプロジェクトを継続しているチームです。

ご本人・家族・関係者…どなたでも入会いただけ、会費等も一切不要。活動内容としては、啓発講演会の企画実施・印刷物の作成および配布。また情報発信として「プリズム通信」を1ヶ月に一度、メールでお届けします。

平成20年度は、

- ・ 厚労省の発達障害情報センター開設のお知らせ ・ 講演会情報 ・ 軽度発達障害ワークショップの案内
- ・ 「発達障害児のためのイカ介入療法(セラピー)」の基礎研究参加者募集
- ・ 軽度発達障がい児の「豊かな放課後」を考えるための意識調査(アンケート)等 年間13回配信いたしました。

現在チームメイト数は、129名です。

★平成20年度は、大阪府福祉基金地域福祉振興助成金を受けての事業として、かねてよりスタッフもそのお話をぜひお聞きしたいと熱望していた京都市児童福祉センター・京都市発達障害者支援センター長 門 眞一郎先生を講師としてお迎えし、2部制の講演会を実施しました。

タイトル： ‘障がい理解・支援’ のアハ体験☆～門眞一郎先生を迎えて

日 時： 3月8日(日) 第1部 10:30～12:30 第2部 14:30～16:30

場 所： サンスクエア堺 B棟ホール

講 師： 門 眞一郎先生

内 容： 第1部 自閉症スペクトラムのコミュニケーション支援(1)～ソーシャルスキルの教え方～

○技法として、

ソーシャル・ストーリー、ソーシャル・アティクル、コミック会話、ソーシャル・スキル・アルバム
パワーカード等について。

○具体事例として、

「卒業式や入学式のマナーを教える」「イヤなことを言われた時、どうするか」「自分の気持ちを、
誰かに伝える」 など

第2部 自閉症スペクトラムのコミュニケーション支援(2)～PECSを中心に～

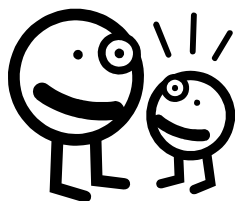
○自律性・自発性の獲得の必要性について。

○PECSの特長とその具体的な方法 ふだんの生活で使う場面(ビデオ映像)

～参加者の感想より～

第1部：・心の疲れが取れました。職場で悩みすぎてどうしていいのかわからなくなっていたのですが、正しいコミュニケーションの取り方をわかりやすく教えていただけました。早く職場で実践したいです。[福祉関係職員]
・とても勉強になりました。職場の人・全員が聞いてくれたら…と思いながら聞かせていただきました。明日から現場で生かせるようにしていきたいと思います。[小学校教師]

第2部：・実際の様子をビデオで見ることができ、とてもわかりやすかったです。自分から要求できることがどんなにすばらしいことか、改めて感じる事が出来ました。[保護者]
・言葉がないからコミュニケーションが取れないのではなく、適切な支援方法を見つけることでコミュニケーションが図れるのだと思いました。PECSの話詳しく聞けてよかったです。[重度自閉症保護者]



今まであまり取り上げられなかった「障がい児の防災」をテーマに、当事者としての視線/立場から、行政・一般市民に向け「障がい児という災害時要援護者の存在」についての啓発をしようという活動です。

平成20年度は、これまで継続して取り組んできた『災害時要援護者マーク』の周知や防災手帳やワッペンの普及のための活動のほかに、堺市立百舌鳥養護学校の帰宅困難者問題について取り組みました。6月に全保護者対象にアンケートを実施。この結果をまとめ「保護者にできること」・「学校にできること」・「地域に求めること」・「行政に求めること」の提案をしました。これにより、堺市立の養護学校(今年度より支援学校)に災害時備蓄品が置かれることになりました。

【堺市立百舌鳥養護学校帰宅困難者アンケート】

児童生徒が学校にいる時間に大きな災害が起きた場合、いったい何人の子どもが、どれくらいの時間内に、家に帰ることができるのか？ 逆に言えば、どのくらいの子どもたちが「家に帰ることができず、学校で過ごすことになるか」という問題があります。また、一人ひとりの子どもをどのように「無事帰宅させるか」という問題もあります。これらの問題については、対応策が準備されていなかったため、帰宅困難者の調査を実施し、どのような対応策があればよいかを考え、堺市に提案することを目的に堺市危機管理室と百舌鳥養護学校の協力のもとアンケート調査を実施いたしました。

★調査結果及び提案（抜粋）

198名配布・119名回収（回収率60.1%）

災害発生後、(道路・公共交通機関不通を想定し)3時間以内に学校に迎えに行けるであろうとの回答は38% 兄弟児や家族の安全確保の後…や、父親帰宅後など、62%の児童生徒については、遅くまで引渡し作業が続くと予想される。特に深刻なのは、子ども自身の状態により、「車で帰宅でないと無理」(16名・13%)とされる場合は、道路事情が回復されるまで学校に残るしかない…と考えられる。

→数日間の避難生活に対応できるか？ 学校から自宅へ送り届ける方法はないか？など、対応策を要す。

その他、食事・就寝についてのこだわり・衣服下着(オムツ)・薬(抗てんかん薬など30%が継続服用中の薬あり)などについても調査。また、避難生活についても不安や問題点を探りました。

ぴーすからの提案

- ・発生直後→保護者への引き渡しについて
学校は、災害用の保護者への引き渡しリストを作ってほしい。
堺市は、帰宅困難児童(車でないと帰宅できない)への対応を具体化してほしい。(緊急車により自宅まで送るなど)
- ・通学中について
学校は、バス通学中の災害に備え「堺市防災無線」を各バスコースに搭載する対策を行ってほしい。
- ・福祉避難所としての活動〔在校生の87%が「一般の一次避難所での避難が困難」であることがわかった〕
堺市は、百舌鳥養護学校を知的障害児者の福祉避難所に活用できないかを検討してほしい。 など

【防災講演会・セミナー】

<ぴーす主催>

◆平成20年 9月29日 ～堺市生涯学習まちづくり出前講座～

◆平成21年 2月3日 これまでの啓発活動を元にまとめた「防災伝えたいこと」を完成させ、有償配布。

<講師依頼>

◆6月28日ビッグアイ災害支援ボランティアリーダー養成研修講座 講師：理事長 小田

◆10月16日摂津市・自閉症児を持つ親の会「クローバー」より「障害児の防災について」 講師：理事長 小田

◆11月8日ビッグアイ災害支援ボランティアリーダー養成研修講座 講師：理事長 小田

◆11月20日移動支援ネットワークさかいより「障害児の防災について」 講師：理事長 小田

◆11月25日和泉育成会より「障害児の防災について」 講師：理事長 小田

◆1月30日和歌山県立きのかわ支援学校より「障害児の防災について」 講師：理事長 小田

◆2月5日名古屋市守山区手をつなぐ育成会より依頼を受け「障害児者の防災について」 講師：理事長 小田

【防災教育チャレンジプラン メールマガジン(H21.3.31発行)に掲載】

2005年に特別賞を受賞した内閣府等主催の「防災教育チャレンジプラン」事務局発行より原稿依頼があり、防災教育チャレンジプラン メールマガジン3月号のサポーターのコラムの欄に受賞後の近況報告の記事が掲載されました。



ぴーすは、相談事業として堺市の委託（堺市障害者（児）生活支援事業）と大阪府の指定（相談支援事業）として事業所：ぴーすの支援センターにおいて相談事業等を実施しています。また大阪府指定の居宅介護支援事業＝ぴーすのヘルパーステーションで居宅介護等支援事業も実施しています。合わせて、平成20年度の活動は以下の通りです。

1：ぴーすの支援センター（障害者生活支援センター）

年間相談実人数：176名 年間相談延べ件数：1158回

障害種別

視覚	肢体	内部	知的	精神	重複	その他（不明・発達障害含む）
0	5	0	74	2	25	53

相談内容：自立支援法関係の相談（居宅介護支給量の計画や使い方など）	200件
既存の事業所やサークルの紹介、支援機器利用や余暇情報の提供	192件
問題行動への対応方法や障害の理解を含む生活全般の相談	284件
行政などの専門機関の紹介	6件
障害児母親のピアカウンセリング	33件
その他（学校などについて等）	230件
ケアプランの作成	8件
サービス利用計画の作成	205件

平成20年度の相談の傾向として・・・

- 前期（4月～9月） 学齢期・幼児の保護者からの相談が多かったです。 → 学校・生活面での相談
 幼児期のサービス（主に短期入所やファミリーサポートサービスなど）の相談・同行支援
 学齢期の学校との関わり方、登校拒否、放課後のサービスについて多く相談がありました。
- 後期（10月～3月） 成人の方の障害者年金の相談や、個別の支援教育・進路についての相談が多くありました。
 また、発達障害についての相談が、学齢期・成人ともに増加傾向にあります。

その他、支援センター連絡協議会、北区自立支援協議会、堺市自立支援協議会当事者部会などに参加しました。

2：ぴーすのヘルパーステーション（障害者居宅介護支援事業所）

平成18年6月に開設し、3年経ちました。利用者のほとんどが児童です。
 現在、契約利用者は60名、登録ヘルパーは40名です。平成20年度の育児支援ヘルパーの利用は1名でした。
 ヘルパーの数が充分でないために、新規の利用者の受け入れは、時間帯によってはできていない状態です。依然としてヘルパー不足が続いています。今後も、ヘルパーさんにとっても魅力のある事業所作りを目指していきたいと思えます。

平成20年度の研修は

- 6月 保護者との付き合い方
- 7月 障害特性について基礎編
- 9月 行動障害について考える
- 10月 移動支援と放課後活動の安全&防災対策
- 11月 もの・道具・環境でできること
- 1月 Pステ♪質問会
- 2月 何をささえなければならないか
- 4月 ヘルパーという仕事（その役割、可能性）～利用者を迎えて～
- 5月 コミュニケーション支援について

■ 障がい者を支援するモノの販売 ■

「障がい児・者のたのしい暮らしを支援する」ための様々なものの販売などを行っています。

平成20年度に取り扱った商品は、以下の通りです。

《ぴーすオリジナル 携帯お出かけスケジュールセット「おですけくん」 デビュー！！》



「スケジュール始めたいけど、ナニから作ればいいのか？」
 「作らなきゃって思うけど、工作も手芸も超苦手！うまくできない・・・」
 「カード作ってみたけど、並べて遊んでいるだけ。うちの子にはまだ無理なのかな？」
 そんな声にお答えして、作成したのが、この「おですけくん」。
 楽しいお出かけを、見通しをもってより楽しく過ごす事ができるよう、携帯できるスケジュールベース、絵カード15枚、収納ポーチがセットになっています。フェルト地のベースはフック付で、カバンやベルトにも装着可能。色は3色から選べます。お手持ちのカードも使っていただけるよう、完全注文販売となっており、今年2月の発売開始より20個を超える注文があり、四国・九州・沖縄まで旅立ちました。

《ぴーすオリジナルイヤーマフ》

発達障害や知的障がい児者には聴覚過敏のある子・方がいます。そんな人たちが、カーレースや工事現場で働く人が騒音防止のために使用していたイヤーマフを支援機器として使うようになりましたが、高価なためなかなか手が出なかつたりしました。そこで、ぴーすではカー用品専門店の“デューポイント”さんのご協力により、災害時要援護者マーク入りのオリジナルイヤーマフを作成。安価で提供することができるようになりました。このイヤーマフは『おめめどう自閉症サポート企画』でも取り扱いいただき、2年で約900個のニーズがありました。ぴーすにも全国各地より、保護者の方だけでなく、支援学校・福祉施設からのお問い合わせ・ご注文をいただき、支援の輪の広がりを実感しています。



《防災手帳・ワッペン・キーホルダー》

災害時要援護者が使用する防災ワッペン・防災手帳・キーホルダーをオリジナルで作成し、有償配布をしています。

防災手帳・ワッペン



当事者自らがワッペン・手帳でその存在を認識してもらおうとするこの取組みは、全国的にも例を見ないものとして、新聞・ラジオ等マスコミにも取り上げられるなど注目いただいております。

また、オーダーメイドの災害時要援護者キーホルダーやIDカードも21個のご要望がありました。

《発達障がい啓発冊子》



H18年～19年度の発達障害啓発講演会で資料として作成・配布。

その後もご好評いただき、増刷し有償配布いたしております。わかりやすい発達障がい啓発の冊子として、堺市の新任養護教諭研修の資料としても活用いただきました。また、大阪市の学童保育指導員の方や静岡県掛川市からも地域での発達障害啓発活動にと継続的に活用いただいております。

そのほかの、ぴーすオリジナル商品 ・ 歯科受診用カード（写真提供：長崎口腔保健センター）

●その他の取り扱い支援グッズ（抜粋）・タイムタイマー・PACタイマー・かむチューブ・巻物カレンダー・コミュニケーションメモ・Uシンボルシール集・介助箸「箸蔵くん」（ぴーすの定番となり高いニーズを誇ります）

●書籍 発達障がいに関する書籍（売れ筋商品）

「光とともに」「自閉症の子どもたちの生活を支える」「自閉症のすべてがわかる本」「思いつき支援ツール」など

平成20年度 売り上げ件数・支援グッズ 2,727件 ・書籍 832件 合計 3,559件

メディア掲載／講師派遣など

- 4月24日：子育て支援ネットNPO連絡会議「しゃべろう！あそぼう！つながろう！子育てトーク・トーク・トーク」実行委員会に理事長小田が参加。以後12月のイベント開催に向け月例会議に参加。
- 4月25～27日：インテックス大阪で開催のバリアフリー展2008の「e-ATパビリオン」より委託を受け開催期間中の販売部門をぴーすスタッフが担当する。
- 4月25日：ビッグアイ企画提案審査会に理事長 小田が審査員として参加する。
- 4月25日：チャリティディナーショーin 堺に理事長 小田、副理事長 松本が招待される。
-
- 5月13日：第2次堺市地域福祉計画・第4次堺市社会地域福祉総合推進計画の策定作業会議に理事長 小田が参加。以後年間を通し会議に参加。
- 5月27日：大阪府立堺東高等学校の特別授業(第1回)社会福祉基礎「障がい児の母の気持ち…」の授業を理事長 小田が講師を務める。
-
- 6月 3日：府立泉北高等支援学校 進路懇談会にぴーすの支援センターより松本・出来が参加。
- 6月 6日：府立堺支援学校(高等部) 進路懇談会にぴーすの支援センターより松本・出来が参加。
- 6月13日：堺市立平井中学校より依頼を受け、福祉ボランティア活動事前学習の講師を理事長 小田が務める。
- 6月19日：日本女性会議2009 さかい実行委員会に田中和美が参加、以後21年秋の会議開催に向け会議出席。
- 6月19日：堺市立百舌鳥養護学校中学部のつどい「すてきな大人になるために」のテーマで小田が講師を務める。
- 6月23日：大阪府育成会幼児学齢期部会より依頼を受け、ぴーすの支援センター 大西俊介が講演する。
- 6月28日：ビッグアイ災害支援ボランティアリーダー養成研修講座より依頼を受け、理事長 小田が講師を務める。
- 6月30日～7月4日：堺市市民活動支援基金登録NPO 法人活動展に参加。パネル展示やパンフレット配布を行う。
-
- 7月 8日：堺市立もず園保護者会より依頼を受け、コンサートを企画する。
- 7月 9日：ビッグアイ「バリアフリーアートアカデミー事業」の企画提案審査会に、理事長小田が審査員として参加。
- 7月10日：H20年度第1回発達障害者支援センター連絡協議会に副理事長 松本が参加。以後年間を通し会議に参加。
- 7月23日：全日本育成会「家族支援プロジェクト 第1回会議」に理事長 小田が出席。以後毎回会議に出席
- 7月29日：堺市の新事業「障害児放課後活動等支援事業」のプレゼンテーションに参加。後日、「ぼるの家」「ぴーすの家」に加えて新たに「ぼんたの家」も決定
-
- 8月23日：おもちゃ図書館ぼっぼからの依頼で、『ぴーすの就学相談会』を開催する。松本・出来が担当。
- 8月29日：堺市立えのきはいむ保護者会より依頼を受けコンサートを企画する。
-
- 9月 1日：佛教大学より依頼を受け、「社会福祉援助技術現場実習指導」の授業で理事長小田が講師を務める。
- 9月 1日：NHKラジオ『防災の日特集/関西発いのちのラジオ』という番組の中で、全国に先駆けての災害時要援護者の当事者からの発信ということで、ぴーすの防災ワッペンの取り組みが紹介される。
- 9月25日：中区民まちづくり会議に理事長 小田が委員として就任し、第一回会議に出席。以後毎回の会議に出席。
-
- 10月16日：摂津市・自閉症児を持つ親の会より依頼を受け、「障害児の防災について」理事長小田が講師を務める。
- 10月24日：朝日放送「NEWS ゆう」の取材を受け、障害者児を支援する立場としてのぴーすを紹介する内容で放映される。
- 10月25日：TEACCH プログラム研究会 兵庫支部より依頼を受け、定例学習会で理事長 小田が講師を務める。
- 10月29日：ビッグアイ企画提案審査会に理事長：小田が審査員として参加する。
-
- 11月6～11日：めだか教室への講演依頼をうける。子育て体験や就園についての話をする。
- 11月 8日：ビッグアイ災害支援ボランティアリーダー養成研修講座より依頼を受け、理事長 小田が講師を務める。

- 11月11日：大阪府立堺東高等学校の特別授業（第2回）・社会福祉援助技術「障害を理解する・支援する」を理事長 小田が講師を務める。
- 11月20日：移動支援ネットワークさかいより、依頼を受け、「障害児の防災について」理事長小田が講師を務める。
- 11月25日：和泉育成会より依頼を受け、「障害児の防災について」理事長小田が講師を務める。
- 11月27日：八尾東大阪育成会より依頼を受け、ぴーすの支援センターより大西が講演を行う。
-
- 12月11日：NPO法人南大阪地域大学コンソーシアム事務局より、理事長 小田が市民活動調査のヒアリングを受ける。翌年3月に報告冊子が作成される。
- 12月13日：近畿障害児教育臨床研究会より、依頼を受け、副理事長松本と山本真美が講師として実践報告をする。
- 12月13日：子育て支援ネット連絡会主催イベント「しゃべろう！あそぼう！つながろう！子育てトーク・トーク・トーク」に参加。発達や成長に遅れやつまづきのある子育てを応援するしゃべり場担当。
- 12月18日：堺市安全・安心・快適な市民協働のまちづくり条例検討懇話会に理事長小田が出席。以後年間を通し会議に参加。
-
- 1月21日：堺市の高橋副市長が障害児放課後活動等支援事業のモデルケースとして「放課後クラブぱる」を視察。
- 1月24日：おもちゃ図書館全国連絡会よりこども未来財団の研究事業の事例紹介のため、全国500箇所のおもちゃ図書館の中から先進的な活動を実施している事例としておもちゃ図書館ぽっぽの活動を視察・報告さる。
- 1月29日：大阪府立堺東高等学校の特別授業（第3回）人権講演会「障がいのある暮らし」を理事長 小田が講師を務める。
- 1月30日：和歌山県立きのかわ支援学校より依頼を受け、「障害児の防災について」理事長小田が講師を務める。
- 1月31日：「障害者権利条約タウンミーティング in さかい」にて理事長小田がパネリストとしてステージで発言。
-
- 2月 5日：名古屋市守山区手をつなぐ育成会より依頼を受け「障害児者の防災について」理事長小田が講師を務める。
- 2月16日：大阪市内の自閉症児の父が主催する「わんすてっぷ～障害支援を考える会」講演会にて「最重度自閉症児を楽しく育てるために」のテーマで理事長小田が講師を務める。
- 2月23日：「新・堺あったかぬくもりプラン（第2次堺市地域福祉計画・第4次堺市地域福祉総合推進計画）」の概要を紹介する「堺市地域福祉フォーラム～つながる・ひろげる・みんなで支えあう」で、理事長：小田が司会をつとめる。
-
- 3月 2日：堺市立つぽみ園保護者会より依頼を受け、コンサートを企画する。
- 3月 3日：NPO法人えんばわめんと堺より依頼を受け、「障がいのあるこどもから学ぶ～障がいのある子どもの保護者とともに」のテーマで山本明美・松井清美他が講師として参加。
- 3月9～14日：『つながるウイーク KITAKYO』北区障害者自立支援協議会主催でパネル展示会&作業所の物品販売を行う。ぴーすの支援センターより松本がスタッフとして参加。
- 3月12日：北保健センター重複障がいのある乳幼児保護者セミナー「北っこクローバーの会」より講師派遣依頼をうけ、ぴーすより山本明美他がらっしゅメンバーが体験談を話しグループトークにも参加。
- 3月26日：「堺市障害児放課後活動等支援事業」のプレゼンテーションに参加。後日4箇所目、「ペリエの家」が決定。
- 3月31日：防災教育チャレンジプラン実行委員会・事務局より原稿依頼をうけ、防災教育チャレンジプランメールマガジン第15号（3月号）H21.3.31発行 <http://www.bosai-study.net/> に05年度チャレンジプラン・防災教育特別賞受賞後のその後の活動をサポーターのコラムの欄で紹介される。

